

動物実験に関する検証結果報告書

相模女子大学・相模女子大学短期大学部

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2023年3月

2023年3月10日

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長 田畑雅英 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 三好一郎



対象機関：相模女子大学・相模女子大学短期大学部

申請年月日：2022年7月29日

訪問調査年月日：2022年12月1日

調査員：浦野 徹、宮下信泉

検証の総評

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、1900年に東京市本郷区に日本女学校として設立され、その後1946年に神奈川県相模原市の現在地に移転し、今日に至る長い歴史をもつ私立大学である。大学は、学芸学部（日本語日本文学科他4学科）、人間社会学部（人間心理学科他1学科）、栄養科学部（健康栄養学科他1学科）、短期大学部（食物栄養学科）、大学院（栄養科学研究科）、専門職大学院（社会起業研究科）を擁する。動物実験に関しては、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」及び「相模女子大学・相模女子大学短期大学部動物実験に関する規程（以下「機関内規程」という。）」の下、適正に実施されている。また、実験動物の飼養保管に関しても、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適性に実施されている。

今後、飼養保管基準を再確認するとともに、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）が公開する最新の機関内規程（雛形）等を参考に、機関内規程の充実を検討されたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
機関内規程（2022年3月9日改正、2021年4月1日施行）が基本指針に則り策定されている。従って、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
公私動協が公開する最新の機関内規程（雛形）等を参考に、特に飼養保管基準にかかわる実験動物の飼養及び保管と動物実験等の実施施設の維持管理を再確認し、これらの内容についても機関内規程等に確実に反映させることを検討されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input checked="" type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
機関内規程において、基本指針に則した動物実験委員会の役割や3要件を満たす委員構成が規定され、動物実験委員会が適切に設置されている。従って、動物実験委員会について、「動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。」とする。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見
自己点検・評価報告書では、実験動物に関して優れた識見を有する者が2名配置できていな

いことについて、今後の改善の方針として各要件に 2 名配置できるようにすることを述べている。今後、委員の増員について速やかに対応し、動物実験委員会の機能を充実されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

機関内規程において、学長の権限、動物実験委員会、動物実験計画の立案、審査、手続き、実験操作及び実験終了後の処置等について規定され、動物実験計画書、動物実験経過報告書等の各種様式も定められている。しかしながら、「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書及び廃止届」は未整備で、動物実験計画書には人道的エンドポイント、動物死体の処理方法、苦痛軽減に係る麻酔法の具体的な記述方法も明確ではない。従って、動物実験の実施体制について、「基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。」との自己点検・評価の結果であるが、「動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

国立大学法人動物実験施設協議会（以下「国動協」という。）が提案している様式を参考に、「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書及び廃止届」の様式を整備し、また動物実験計画書では、人道的エンドポイント、動物死体の処理方法や苦痛軽減に関しても確実に委員会審査できる様式に改善されたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え動物を用いる実験のみ実施しており、病原体の感染動物実験、有害化学物質及び放射性物質の投与動物実験の実績はない。遺伝子組換え動物を用いる実験は、機関内規程及び「相模女子大学遺伝子組換え実験に関する規程」が定められ、適正に管理されている。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

これまで未実施の「病原微生物を用いる動物実験」「発がん物質・有害化学物質を用いる動物実験」及び「放射線・放射性物質を用いる動物実験」を実施する場合は、必要な施設・設備を整備するとともに、事前に関連法令等を踏まえて学内規程等を整備して、当該実験に関連する学内委員会を設置されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設には管理者及び実験動物管理者が配置されており、飼養保管マニュアルに加えて緊急時の対応マニュアル、学内外の緊急連絡網も整備されている。自己点検・評価報告書では、飼育環境の定期的な点検ができていないことから、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」としているが、改善策として飼育環境の作業点検表の策定と定期的な点検並びに外部委託による微生物モニタリングの実施が示されている。従って、実験動物の飼養保管の体制について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

今後、自己点検・評価報告書に述べられているとおり、飼育環境の作業点検表の策定と定期的な点検及び外部委託による微生物モニタリングを速やかに実行されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は2017年度に外部検証を受けており、今回は2回目である。初回から5年後に再び外部検証を受けたことは評価できる。また、前回の外部検証時に指摘された飼養保管マニュアルの策定、各学部や遺伝子組換え実験安全委員会との連携などが、学長、副学長をはじめとする関係者、特に動物実験委員会、さらには事務担当者による積極的な

取り組みにより改善されてきたことは高く評価できる。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験委員会は、動物実験計画の審議及び調査、学長への動物実験の実施結果に関する報告並びに助言、また議事録の保存について、基本指針や機関内規程に従って適正に実施している。従って、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

2. 動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>学長は、動物実験委員会の審査を経て動物実験計画を承認・却下、動物実験責任者は、実施結果報告書を提出、動物実験自己点検報告書は動物実験委員長名で学長に提出するなど、動物実験の実施状況は適正である。従って、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。

<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 遺伝子組換え実験に関する動物実験は安全に実施されており、事故等の発生もない。また、動物実験委員会の1名が遺伝子組換え実験安全委員会にも所属して、必要な情報共有が行われている。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 飼養保管施設では管理者及び実験動物管理者の管理の下で清潔に保たれ、「相模女子大学・相模女子大学短期大学部 実験動物飼養・保管マニュアル」に定められた運営並びに利用指針に基づき、さらに実験動物の健康及び安全の保持、動物の数などの記録もあり、適正に飼養保管が実施されている。従って、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
--

<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 飼養保管施設は動物実験委員会の委員長により定期的に調査、視察が行われており、入退室記録もある。従って、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会の委員長による定期的な調査、視察結果の記録とその保管を検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 実験実施者及び飼養者には、日本実験動物学会が公開するビデオ教材「動物実験は機関管理されています」により、関連法令やそれらに基づく機関内体制、3Rsの理念などの教育訓練がなされている。しかしながら、それ以外の事項についての教育訓練は不足している。従って、教育訓練の実施状況について、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 実験動物管理者が日本実験動物学会の主催する実験動物管理者等研修会を受講している点は評価できるが、教育訓練の内容について、動物実験等の方法に関する基本的事項、実験動物の飼養保管に関する事項、安全確保、安全管理に関する事項、人獣共通感染症に関する事項、施設等の利用に関する事項などを追加して改善されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
--

<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 「ホームページ上で動物実験に関する情報公開をしているものの、実施件数のみである」とする自己点検・評価報告書により、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」としている。訪問調査の時点で一部の情報公開は進められていたが、2017年度以外の自己点検・評価、実験動物の飼養保管状況及び教育訓練については公開されていなかった。従って、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 毎年度の自己点検・評価報告書のほか、実験動物の飼養保管状況及び教育訓練の実績など国動協並びに公私動協が要請する情報公開項目について公開されたい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

適正な動物実験の実施及び飼養保管を推進するために、学長、副学長並びに動物実験委員会の委員が中心となって着々と進められており、さらに今回の外部検証で指摘された事項を改善することにより、機関管理体制のますますの発展が期待される。